

## 2 基本理念・みどりの将来像

### (1) 基本理念

#### 百年の杜づくりで実現する新たな杜の都

～みどりを育むひと、みどりが育むまち～

本市の都市個性の1つに、市街地における公園や街路樹といったまちのみどりが、奥山から沿岸部までの豊かな自然と連続し、都市機能と調和した「環境」があります。これは市民共有の財産として、良好なみどりの保全・創出を行う「百年の杜づくり」が支えてきたものです。

上位計画になる仙台市基本計画では、世界からも選ばれるまちを目指し、「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City” SENDAI～」をまちづくりの理念とし、これまで培ってきた都市個性を深化、掛け合わせることで、杜の都を新たなステージに押し上げる挑戦をはじめることとしています。

このことを踏まえ、これまでみんなで取組んできた「百年の杜づくり」を継続するとともに、培ってきたみどりの多様な機能をまちづくりに積極的に活用していくことで、新たな杜の都を実現します。

ひとがみどりを育み、そのみどりがまちと暮らしを育むことで杜の都の更なる高みを目指します。

#### 「百年の杜づくり」とは

本市は「杜の都」と呼ばれており、この緑豊かなまちの姿の原点は、今から約400年前までさかのぼります。仙台藩祖伊達政宗公が屋敷内に果樹や建築用材となる木を植えるように勧めてできた屋敷林、寺や神社の林、広瀬川や青葉山の緑が一体となって、まち全体が緑に包まれていたと言われていました。第二次世界大戦時の仙台空襲で、まちの緑は消失してしまいましたが、その後の復興により「杜の都」を支える緑は、青葉通や定禅寺通などの街路樹、青葉山公園や西公園などに代わっていきました。

「百年の杜づくり」とは、伝統ある「杜の都」の風土を生かし、市民・市民活動団体・事業者・行政が協働して、百年という時を味方に「みどりと共生する都市」を創造し、未来へ継承していく取組みです。

## (2) みどりの将来像

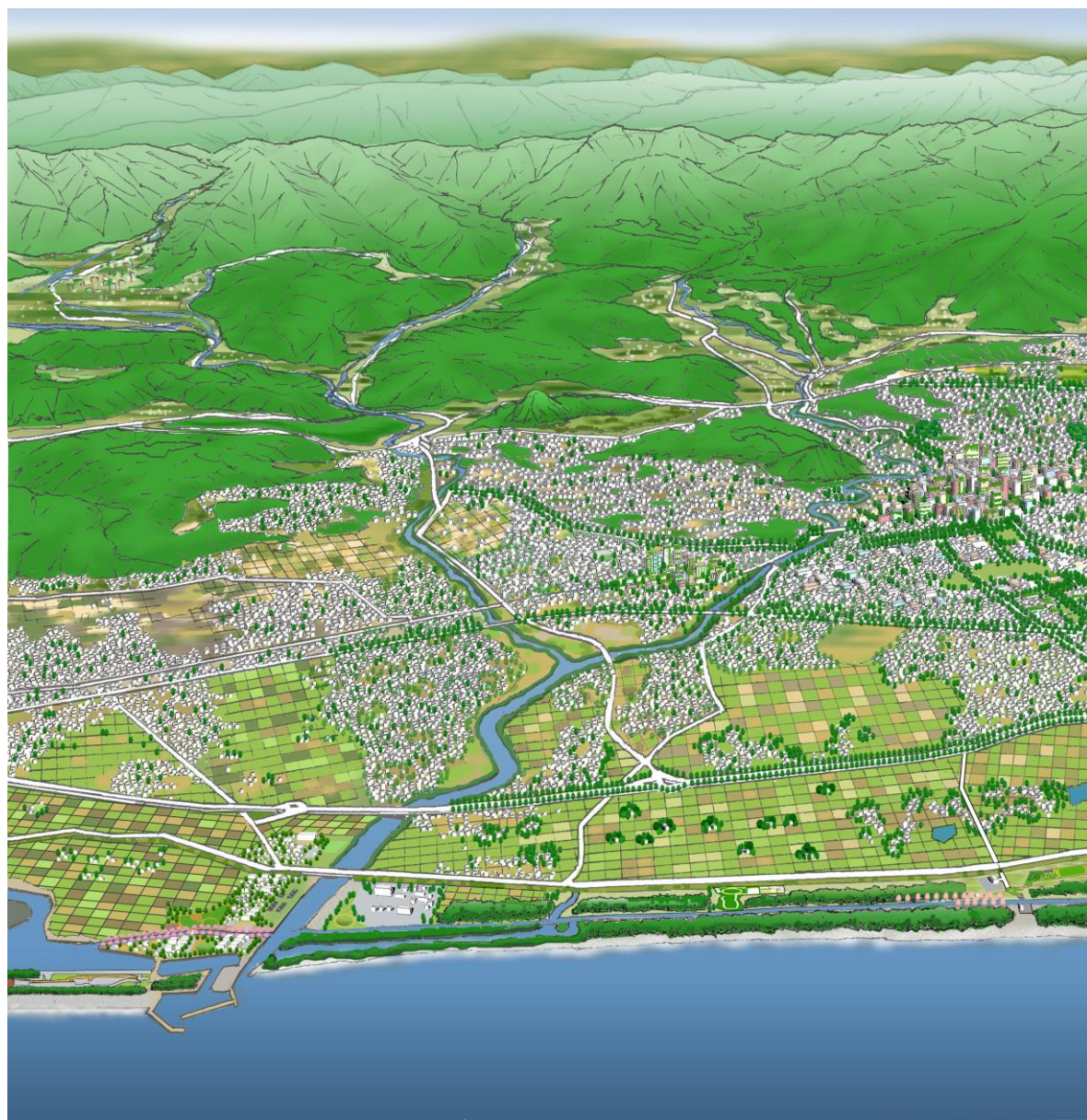
### ○百年の杜将来イメージ

奥羽山脈や泉ヶ岳などの奥山のみどりは澄んだ空気と水を生み出し、生き物を育みます

斉勝沼緑地や水の森公園などの里山のみどりは人々を招き入れ、自然とまちをつなぎます

青葉の森緑地や岩切緑地などの市街地のみどりは人々を包み、居心地の良い空間で人のつながり

定禅寺通や勾当台公園などの都心のみどりが人を守り、人に活力を与え、まちのにぎわいを創



が生まれます

ります



広瀬川や七北田川などの河川のみどりはもり，まち，うみをつなぎ，そこに人々が集います

東部地域などに広がる田園のみどりは歴史的景観を留め，海からの風を招き入れます

海岸公園などの海岸のみどりが再生し再び市民の生活を支え，新たなにぎわいが生まれます

## 奥山



樹林地等の適切な管理に取組み、生物多様性の保全、健全な水循環、二酸化炭素の吸収、持続可能な木材供給などを実現します。

## 里山



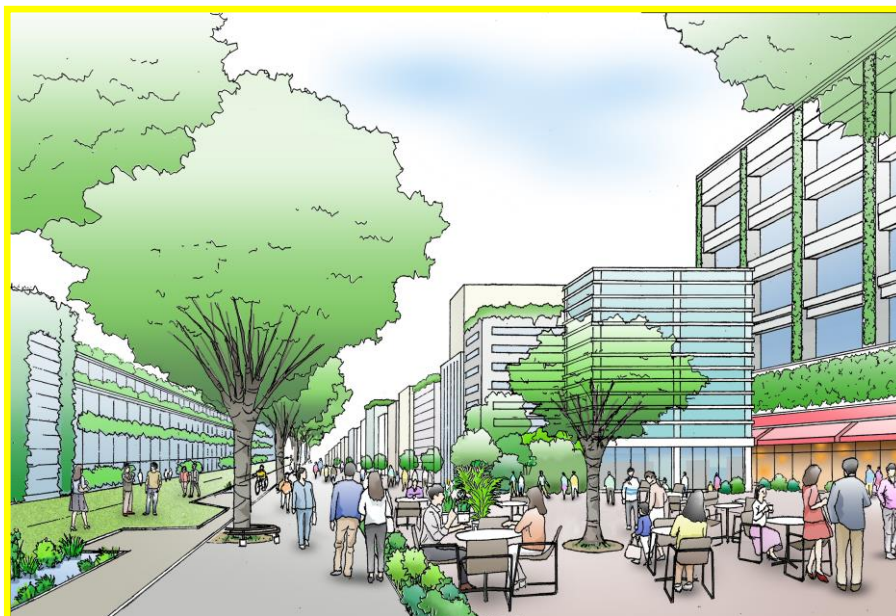
良好な自然環境の維持に取組むとともに、キャンプや環境教育など市民が様々な利用する場となることを目指します。

## 市街地（都心以外）



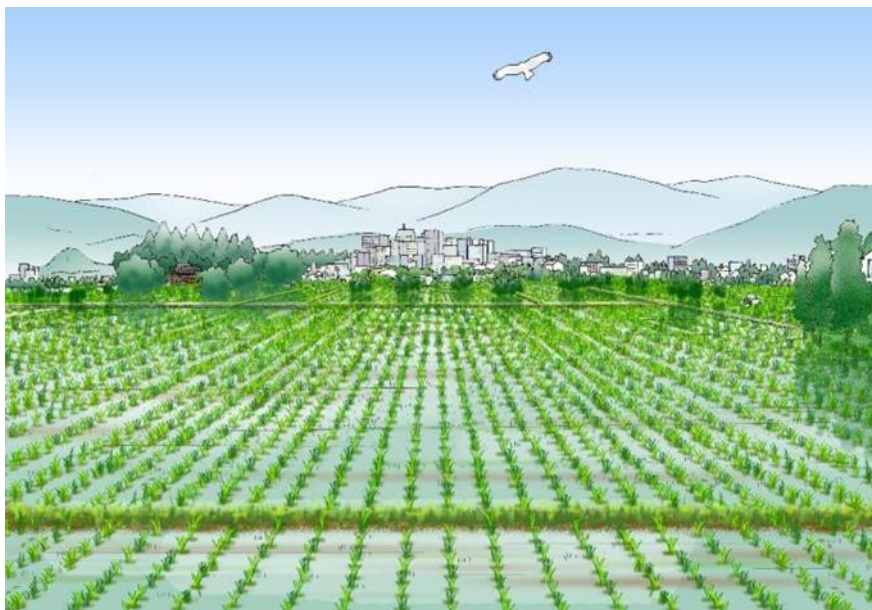
多様な主体と連携した公園整備，管理運営に取組み，**子どもの遊び**や**テレワーク**，**地域の花壇**づくりなど，生活スタイルに合わせ公園が利用されるまちを目指します。

## 都心



建築物緑化や街路樹，公園などのみどりの充実と利活用に取り組み，美しく活気ある都市空間を目指します。

## 田園



農地の適正な保全に取り組み、生物多様性の保全、地域固有の景観の維持、健全な水循環、ヒートアイランド現象の緩和などを実現します。

## 海岸



農業体験等の集団移転跡地の利活用や、市民協働による海岸防災林の再生を進めることで、防災・減災機能を高めながら、東部エリアのにぎわい、活性化を目指します。

## 河川



河岸段丘の景観と生物多様性を保全しながら親水空間の利活用に取り組むことで、仙台の都市個性としての価値を高めながら、市民に近い河川空間を目指します。